SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

持続可能な開発のための教育（ESD）

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization ・ UNESCO Associated Schools

ユネスコスクール便り

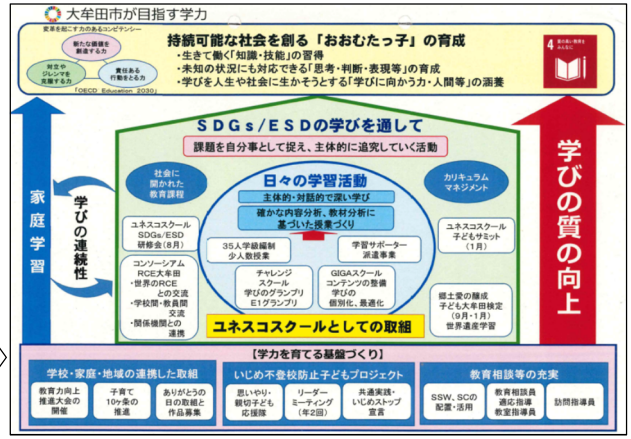
№98

令和２年12月２３日
大牟田市ユネスコスクール
担当者通信

SDGs/ESD の学びと日々の学習

大牟田市では、持続可能な社会を創る「おおむたっ子」の育成に向けて、各学校がユネスコスクールとして、課題を自分事として捉え、主体的に追究する「SDGs/ESD の学び」を推進しています。この SDGs/ESD の学びは、日々の学習活動と別のものではありません。課題を自分事として捉え、主体的に追究する学びの推進は、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善と同じ方向性にあります。日々の学習活動においても、課題を自分事として捉え、主体的に追究するような学びを目指すことで、学びの質の向上が図られ、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等」の育成』「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」という新学習指導要領で育成を目指す資質・能力を効果的に育むことができます。

さらに、主体的に学びに向かう態度が身に付くようにするために、学校における学びと家庭における学びの連続性を図り、授業改善と合わせて家庭学習の指導の充実を進めていくことも重要です。大牟田の子ども達の学びの質を高め、予測困難な時代をたくましく生きる力を育てていきましょう。



【大牟田市が目指す学力】

特色ある実践事例の紹介

「心のふれ合い伝え合い」を通して　羽山台小学校

住宅型高齢者施設「羽山台ヒルズ」の訪問を通して、高齢者の方と２回の交流を行いました。子ども達は交流方法を話し合って一回目の訪問に取り組みましたが、入居者の実態との不合致に気付いて、「次回は、『してあげたい』ではなく、『相手に喜んでもらえるように、相手の立場を大切に』しよう」と考えることができました。そして、話す時の声の大きさや速さを変えたり、身振りや文字を取り入れるなどの交流方法を考えたりしました。また、高齢者の方に遊びを教えようと施設訪問した子ども達でしたが、高齢者からたくさんのことを学ぶことができました。二回目の訪問後は「相手の立場や状況に応じて考えることが大切」であることに気付き、全ての人が共生するために大切なことを考えることができました。

高齢者の方とふれ合う子ども

みんながつながる中友校区を目指して
～ 子ども民生委員活動 ～　中友小学校

中友小学校では、ESD の一環として福祉教育や環境教育に重点を置いた学習を進めています。５年生においては、総合的な学習の時間を中心に、みんながつながる中友校区を目指して、学校と校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会など関係機関との連携した「子ども民生委員活動」を行っています。６年生からこれまでの活動を受け継ぎ、独居高齢者宅訪問、認知症学習、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練、赤い羽根共同街頭募金活動などを通して、地域の課題を見出し、自分達のできることを考え、自ら実践しようとする気持ちや意欲を高め活動に取り組むことができています。

今後も、地域の方々や関係機関と協働して、みんながつながる中友校区を創り出す実践活動に取り組んでいきます。様々な活動に取り組みながら、高齢者や地域環境への理解を深め、行動につなげることを期待しています。

ほっとあんしんネットワーク模擬訓練の様子